

「2024年北海道大学・マサチューセッツ大学アマースト校 高分子工学にかかるバーチャルシンポジウム」を開催

北海道大学は全学的な研究連携強化を図っている米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst, 以下、「UMA」）と、1月31日（水）に「2024年北海道大学・マサチューセッツ大学アマースト校高分子工学にかかるバーチャルシンポジウム」を開催しました。北海道大学とUMAは、札幌農学校、マサチューセッツ農学校の時代から長く連携関係にあります。近年の研究者のジョイントアポイントメントや共同研究を経て、2023年4月には総長一行がUMAを訪問し、戦略的国際連携パートナーとして全学的な連携強化に合意しました。本イベントは、両校の強みのある分野の一つ、高分子工学をテーマにオンラインで連携促進にかかるキックオフイベントとして開催されました。

本シンポジウムは、本学の高橋 彩 理事・副学長の司会、UMAのカルペン・トリヴェディ国際担当副プロボス

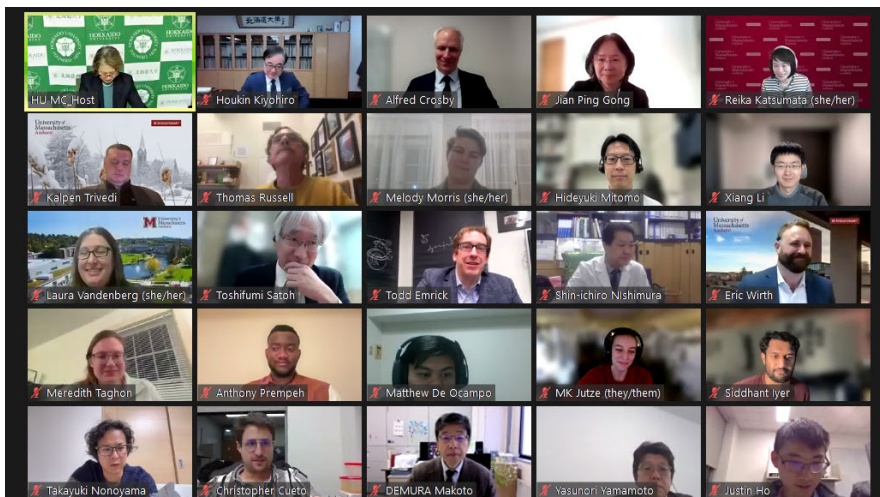
ト、寶金清博総長による両校連携の振り返りによって始まりました。UMAのハビエル・レイス学長からは、着任して間も無いながらも150年近く前から姉妹校関係に感銘を受けていることと、本学が過日採択された文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」への期待が込められたビデオメッセージが届きました。また、同分野で長年連携の礎となっている、先端生命科学研究院のグン・チェンピン教授、高分子工学科のアルフレッド・クロスピー学科長・教授による研究室レベルでの若手人材交流の紹介と今後の展望を踏まえた挨拶がありました。

研究ショーケースとしたセッションでは、工学研究院の佐藤敏文教授、先端生命科学研究院の西村紳一郎教授とシャン・リ准教授、電子科学研究所の三友秀之准教授、UMA高分子工学科のトッド・エムリック教授、勝又麗香助教、メロディ・モリス助教、ス

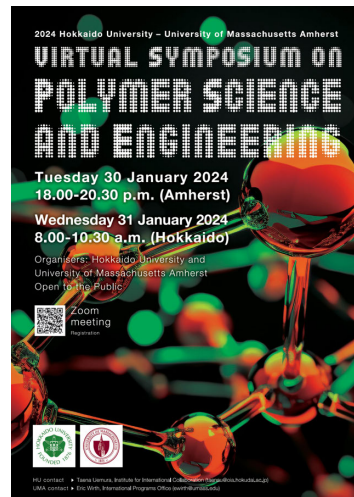
ティーブ・グラニック教授と、両校より8名の研究者から研究活動の紹介があり、学生や若手研究者へのエールと共同研究の可能性が提示されました。

新規共同研究と学生の研究インターンシップが増えることへの想い、両校連携は人と人の繋がりでの積み重ねであることが、増田隆夫理事・副学長とローラ・ヴァンデンバーグ研究担当理事代行から改めて強調され、2時間半のイベントは幕を閉じました。参加者約90名には、両校のみならず、ミシガン大学、スタヴァンゲル大学、ボゴール農科大学、チュラロンコン大学、南ミシガン大学、フィリピン科学技術局、大阪大学からの参加もあり、高分子工学分野への関心の高さをうかがわせました。

（国際連携機構）



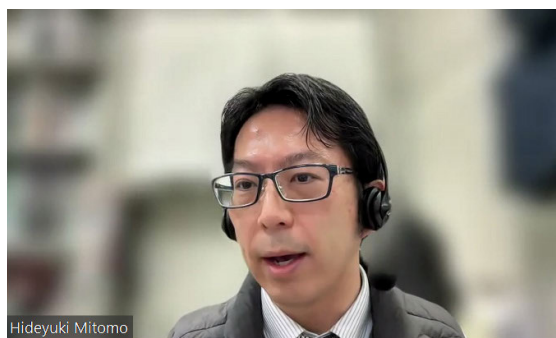
参加者一同



フライヤー



ヴァンデンバーグ研究担当理事代行



電子科学研究所の三友准教授